

前回のあらずじ

いよいよ最終仕様が完成した邪道スピーカー。予想はしていたが、やはりできたては全然良くなく、少しガツクリ。それでもエージングによって徐々に本性を現してきたが、まだまだその実力は未知数だ。そんな中オヤイデ電気近藤氏より、「代官山gradationという、期間限定で巨大な空間を貸し切ったアートイベントがあるんですが、ステレオさん何かやりませんか?」ときた。これは渡りに船とばかりに、「面白いスピーカーがありますよ」と邪道スピーカーを差し向けた。11月半ば〜12月半ばまでの約1カ月設置し、様々なアーティストやオーディエンスに自由に聴いてもらいその反応を探ってみた。

吉野 近藤さん、約1カ月間この場所に邪道スピーカーを置いて鳴らしてきたわけですが、どのような反応がありましたか?

近藤 普段オーディオとかにあまり触れたことがない人たちも、「いい音だね」と言っていて立ち止まって聴き入っていることが多く、印象的でしたね。組み合わせた真空管アンプやアナログプレーヤーの雰囲気も良くて、スマホで撮ってる人が多かったです。アンビエント系を流すDJがこのスピーカーを使用したイベントがあったのですが、「解像度がやべえ」と興奮していましたよ。スピーカーウは現代のスピーカーを足して補っていました。**吉野** 解像度が高いというのは、恐らくネットワークがないことによる、ストレ

邪道スピーカーいよいよ完成。見よこの雄姿を!

連載

新感覚オーディオクラフト

俺流スピーカー!
邪道を往く

第12回
代官山イベント会場を鳴らせ

アクロージュファニチャー 岸邦明×ステレオ編集部 吉野
アクロージュファニチャー <http://www.acroge-furniture.com/>

ートな音ということですかね。細かく音が見えるという事だけなら、現代のスピーカーの方が。

近藤 いやいや、レンジは広くないですが、出てくる音の解像度、密度感が高いですよ。正直、はじめは、こんな古臭いスピーカーで大丈夫かよ、巨大なラジオみたいな音がするんだろう、と思ってましたが、どんどん低音も出てきて。ホーンのおかげで会場の遠くまで音も届くし、ホーンと音が出るスピード感は今まで聴いたことがないです。

アートイベント「代官山Gradation」ラウンジに設置された邪道スピーカー

再生システムは、サンバレーSV-Pre1616D（プリ）、SV-P1616D（パワー）、テクニクス SL-1500C（アナログプレーヤー）、シュア V15type4（本体）+JICO「KUROGAKU」（針）、をアクロージュ岸氏自作の無垢ラックに納めた。ケーブル類は全て、近藤氏が選んだオヤイデ製

吉野 ありがとうございます。なんか自画自賛の自慢ページみたいで面白くないので、具体的に良い部分と悪い部分を正直に語ってください。

近藤 月並みですが、いい音なんですよね。心地よいというか。いままで自分は高解像度なものが好きだったんですが、このスピーカーを聴いてから違う方向もありだと思い始めました。ある意味超高解像度なんですよね。スコツとリアルに音が前に出てくるし。ボーカルやギターが異様にキレイになる。絶妙なんですよ。アルテックとかとも全然違って今ま

でに聴いたことがないですね。やっぱり箱の違いなんでしょうかね。ロウもほどよく出て、スピーカーウは厳しいですが、リスニングに向いているというか。**吉野** なぜ心地よいと感じるんですか?**近藤** 真空管との組合せというのもあるんでしようけど、中低域の表現力が素晴らしい。今のハイエンドスピーカーを聴くとレンジが広大なんですけど、別に映画館じゃないんだから…。これは音楽を聴くには適した音だと思ったんですよ。小さい音でもキレイになっているし「聴き続けたくなる音」なんです。この音が聴こえると酒が飲みたくなる(笑)。コンセプト通りにうまくいっていると思うので、文句のつけようがないです。

吉野 ありがとうございます(笑)。お互い持ってきたレコード聴いてみましょう。

ディアンジェロ/Voodoo

近藤 これは割と最近の録音ですが、全然違和感なく鳴ってますね。

吉野 スネアのキレが気持ちいいです。バスターもスピーディでベースももたつくことなく、とにかくノリがいいですね。**岸** いい音ですよ。音楽を聴くのに、充分なレンジで満足できます。

オリジナル・サウンドトラック
パリ、テキサス

吉野 パリテキはライのスライドギター

のバックで流れる「Lil' Red」という重低音はさすがにすっぱり抜けてますね。

近藤 でも、ギターのリアルさは鳥肌ものです。スライドバーが弦を擦る音が生々しい。

岸 僕は初めて聴きましたが、聴こえない重低音など全く気にならない。いい演奏でした。

ハービー・ハンコック／
ファット・アルバート・ロトウンダ

吉野 この1曲目がうるさくならないければOKで、今までもチェックに使ってきました。今回がベストですね。うるさくない(笑)。

岸 各楽器が明瞭に見えるのに、ベースもしっかり下支えしてますね。やっと思案としてまとまりましたね。

オリバー・ネルソン／ブルースの真実

近藤 61年録音のジャズですが、さすがに相性いいですね。

吉野 こんなにジャズが気持ちよく聴けるなんて、嬉しいですね。ホーンが気持ちいいし、ウッドベースも弾む。家のスピーカーだとこの手のジャズが鳴らなくて諦めてました。

岸 ジャズって鳴らすの難しいですよ。今のスピーカーだとなんかね。

このあとも延々と試聴大会は続いた。次回最終回、いよいよ自宅へ!

オリバー・ネルソン／ブルースの真実
(1961年Impulse!)

オリジナル・サウンドトラック
「PARIS, TEXAS」
(1985年Warner Bros.)

ディアンジェロ/Voodoo
(Cheeba Sound)

自前のディアンジェロを
再生する近藤氏